

第2章 課題と今後の方向性

1 食と農を取り巻く課題

食育推進活動により、農業と食と健康のつながりへの理解が深まりつつある一方、社会全体の変化に伴う課題もたくさんあります。

特に、食への価値観やライフスタイルの多様化が進む中、食育に関心を持ってほしい子育て世代や若い世代は日々の忙しさから、食の大切さは理解しているものの実践できていないという現状があります。

その結果、食習慣の乱れや栄養の偏り、肥満や生活習慣病の問題が依然として存在し、食の安全性の問題や地域の食文化が失われつつあるなど、食に関わるさまざまな問題が生じています。

このような状況の中で、多くの方に食への関心を持つもらうためには、誰もが日常生活の中で実践できる情報を分かりやすく継続的に提供していくことが必要です。

一方、食を支える農業においては、農業従事者の高齢化や担い手、後継者不足が大きな課題となっています。

厳しい農業情勢の中、地産地消は地元の農畜産物を地元で消費することを推進する取り組みであり、「食」を通した消費者と生産者の交流による相互理解、地域の活性化や流通コストの削減などの効果も期待されています。

消費者にとっては、生産者との「顔が見える関係」により、生産の状況も確かめられ、新鮮な農畜産物を購入することができます。また、生産者にとっては、消費者のニーズに即した生産をすることができます。

当町では、身近な場所で作られている新鮮な農畜産物が手軽に入手できる産地直売所が10カ所あり、地産地消の重要な拠点となっており、農業所得の確保とともに交流人口の拡大や町の観光面でも大きな役割を担っているところです。

地産地消は、「食」と「農」の結びつきを深め、地元の農畜産物を理解し、愛着を持つことにより、地域の農業や自然を守り、歴史や食文化の継承、農業と関連産業の活性化などさまざまな効果が期待されています。

2 今後の方向性

(1) 子どもの健全な食に対する意識の形成・定着

「食」は健やかな心と身体を発達させるために欠かせないものです。早い時期から成長に応じた食への関わりや豊かな体験を積み重ねていくことで、自分で考え、実践できる力が身に付き、生涯にわたって健全な食生活を送るための基礎となります。

これまでの取り組みにより、地域や学校などで食育の必要性について意識が高まり、農業体験などの活動は定着してきているため、これらを継続させていくとともに、関係団体との連携を図りながら、子どもたちが食に関わる機会を充実させ、生涯にわたる「生きる力」を育むことが必要です。

(2) 安全安心な食を選択する力の養成

食に関する情報が氾濫している中で、食生活や健康、栄養や食の安全性について正しい知識を持ち、自らの判断で栄養に配慮した食事や安全な食を選択できる力を習得することが必要です。

そのためには、情報を正しく理解し、活用するための知識が必要であるため、正しい情報について普及啓発することが求められています。

(3) 食への意識を高める情報の充実

食を取り巻く環境が変化し、食に関する価値観やライフスタイルが多様化しています。

一人ひとりが「食」について関心を持つためには、さまざまな価値観やライフスタイルに合わせた情報を提供し、日々の生活の中で実践できることから始める取り組みが必要となっています。

また、健全な食生活を実現するために、食の大切さを意識するための食育を推進することが必要です。

(4) 食と農の相互理解と後生に伝えたい食文化の継承

農家数の減少や兼業化の進展により、身边に農業を体験する機会が減少し、食と農を実感することが難しい状況にあります。

農業が果たしている役割を消費者が理解し、郷土への関心を持ち、新鮮で安全安心な地元農畜産物を積極的に消費しようとする意識を育てていくためには、消費者と生産者の交流を図ることが必要です。

また、家庭や地域に伝わってきた郷土料理や豊かな食文化の重要性を理解し、継承していく必要があります。

(5) 信頼される農畜産物の生産と付加価値の創出

地産地消を推進するためには、これまでの生産活動の充実を図るとともに、新鮮で良質な農畜産物の生産や安定的に生産するための土づくり、消費者ニーズに即した生産により、消費者や食品関連事業者から信頼される安全・安心・新鮮な農畜産物を提供することが重要となります。

また、質の高い農畜産物の生産と付加価値を付けた商品の販売などにより、消費者に向けて地元農畜産物の魅力を伝えるための情報を発信していくことが重要です。